

# 明和まつりで夢花火

～ 新型コロナでの空白を取り戻そう ～

令和5年7月30日、4年振りの明和まつりが開催されました。本当ならば「第25回明和まつり」と言うはずが、「令和5年度明和まつり」と言い換えられました。新型コロナウイルス感染症により3年間の空白が空き、祭り担当者も開催して良いものか？迷いながらの開催であったと思います。



【令和5年度明和祭り 司会のアンカンミンカン(芸人)の2人】

## 【コロナの始まり】

令和2年1月、中国で妙な病気が発生しているというニュースが飛び込んできました。その後、新型コロナウイルス感染症とされ、瞬く間に日本にも広が

り、令和2年から令和4年まで世界的なパンデミック（感染爆発）となりました。諸外国では、ロックダウン（国内封鎖）が行われ、日本では非常事態宣言により国民に行動自粛を促しました。



【人のいない東京都内 2020年4月】

日本中のマスクが売り切れ状態になる中、3月中旬の土曜日、一人の職員から「町長、中国からマスクを手配できる目途が立ちました」と連絡がありました。この時は、早く町民にマスクを届けなければと必死でしたので、すぐに手配するよう指示しました。

すると、3月20日過ぎに上海でマスクが荷積みされ出航したと連絡がありました。でも、現物が届くまでとても不安で夜も眠れないくらいでした。

そうこうしている内に、3月29日、有名芸人さんが新型コロナウイルス感染症で亡くられるというニュースが飛び込んできました。日本中が震撼したニュースでした。この病気「何とかせにゃーならない」と思った瞬間でした。

3月30日、ついに大型トレーラーに積まれた医療用不織布マスクが届きま

した。明和町では、すぐに1世帯に50枚のマスクを配布致しました（このマスク代は国からの補助金で対応しました）。



【上海から荷積され東京晴海埠頭から町に届いたマスク】

## 【ワクチン接種】

令和2年夏から、国からワクチン接種を開始するよう指示がありました。それは、医者や看護師を自治体で用意して、割り当てのワクチンを高齢者から順に接種するというものでした。その際、館林邑楽医師会には大変お世話になりました。

また、明和町は、メディカルセンタービルの立ち上げの準備をしていた関係で、色々な病院や医師にパイプがありました。そのおかげで、太田市や埼玉県からも多くの医師に駆けつけていただき、明和町のワクチン接種はワクチンが足らなくなるほど順調に行えました。



【中央公民館 ワクチン接種の様子】

明和町では、平成28年から30年にかけて保健師を6人雇っていました。それは、健康都市を創るために保健指導のできる保健師が必要だからです。町の先回りした政策が新型コロナのワクチン接種にも有効に作用しました。

保健師は現在9人いますが、ワクチン接種が行われる日は、朝早くから出勤してワクチンの注射液充填を担当してくれました。ワクチンは回を重ねて、現在6回目を打っている状況です（2023年8月現在）。

新型コロナウイルス感染症は、感染拡大と感染縮小を繰り返し、第8波まできたところで、令和5年5月8日から感染症分類を2類から5類にする措置（インフルエンザ並にする）が取られました。

いよいよ経済を回しながら、感染症と闘って行く時期に移行しました。町も中止にしていた行事等を開催する運びになりました。人類がコロナに打ち勝つための挑戦が始まりました。

## 【夏祭り と 花火大会】

夏と言えば花火。今年の明和花火は5千発でした。井上陽水さんの曲（少年時代）では、「8月は夢花火 私の心は夏模様」とあります。私も、幼い頃見た分福での花火大会が今も強烈な印象として脳裏に残り、少年時代の夏模様となっています。



時代は移り何の因果か、今の子供達が楽しみにしているであろう「夏祭り・夏模様・夢花火」を、私が責任を持って執り行う立場になりました。限られた予算でしたが、寄付（今年は450万円いただきました）をしてくださった皆様のおかげで最高の花火大会ができました。寄付をしていただきました皆様に感謝申し上げます。

この素晴らしい花火が、子ども達やたくさんの方の記憶に残る「8月は～夢花火♪」となってくれているなら大変嬉しく思います。



令和5年8月28日

明和町長

富塚もとすけ